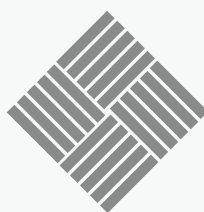


組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume
8
Number
14

2018年3月31日

組紐・組物学会行事（終了分）

2017年 5月13日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「組紐遊び」	多田牧子
2017年 5月26日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「組紐遊び」	多田牧子
2017年 5月27日（土）	10:00～16:00	第4回シンポジウム	京都工芸繊維大学 60周年記念館
2017年 5月28日（日）	10:00～16:00	京都ワークショップ「撚り紐を組む」	土居みどり
2017年 7月8日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「高麗組とリバーシブル小桜源氏」	小嶋博子
2017年 8月25日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「丸台組紐の無限の可能性」	吉田有夫子
2017年 8月26日（土）	9:30～12:00	京都レクチャー「アンデスの平組」	多田牧子
2017年 9月16日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「豪華なビーズ組紐ネックレス」	Adrienne Gaskel
2017年9月26-29日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「豪華なビーズ組紐ネックレス」	Adrienne Gaskel
2017年 11月25日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「ジグザグ組紐遊び」	西幾代
2017年 12月8日（金）	10:00～16:00	検定試験（実技）ワークショップ「ディスクで高麗組」	小嶋博子
2017年 12月10日（土）	9:30～12:00	検定直前レクチャー	多田牧子
2017年 12月11日（日）	13:00～15:00	検定試験（筆記）	京都工芸繊維大学ノートルダム館3階
2018年 1月20日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「老松を楽しむ」	丸山文乃
2018年 2月16日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「クテ打」	春日弘子
2018年 3月10日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「クテを作る クテを使って組む」	亀井三枝子

目次 Contents

組紐 - 伝統を科学する	第4回シンポジウム報告	2
第4回組紐国際会議「Braids 2019 伊賀」予告		6
プレートで組む高麗目の組紐	小嶋博子	8
組紐・組物学会会告		12

In this issue

Kumihimo - Scientific aspects	4th Symposium of the Kumihimo Society	2
4th International Conference on Braids - Braids 2019 Iga		6
Korai kumihimo with Kumihimo Plate	H. Ojima	8
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		12

組紐・組物学会ニュースレター

第8巻 通算14号 2018年3月31日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX: (075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

組紐 - 伝統を科学する

第4回組紐・組物学会シンポジウム報告



1. はじめに

本学会の「第4回組紐・組物学会シンポジウム」が5月27日(土)に、京都工芸繊維大学(60周年記念館1階)で開催されました。延べ約90名の参加者と6人の発表者により、下記のパログラムで進行了ました。(敬称略)

菊池摩耶子「組紐の評価方法に関する検討」

吉田有夫子「曲がり組紐」

高木たまき「真田組紐の構造と強度に関する研究」

木村章子「丸台組紐のコツの習得に関する研究」

池上かおり「結び」と時代」

日下部啓子「トラジャ人のループ操作組紐・マン・カッピツの伝統と現代」

懇親会: 60周年記念館2階

2. 一般公演

菊池氏は、帯締めとしての組紐の出来映えを、簡単な物理試験により評価することを試みた。試料として熟練者と非熟練者による丸源氏組紐の帯締めを用い、万能試験機で引張試験を行い荷重一変位曲線を観察した。繰返し3回の履歴のうち、最初の50Nまでの引張荷重とその後の徐荷の過程で頻繁に荷重の減少が見られ、約40mmの残留変位が生じた。2・3回目の荷重では、その伸びを起点とする滑らかなヒステリシスがみられた。初回の荷重過程で見られるノコギリの歯のような荷重一変位曲線は、引張荷重

により繊維束間に滑りが生じ、組構造に不可逆な変化が生じたものと推定した。引張試験による荷重一変位曲線から、熟練者と非熟練者による組構造の相違だけでなく、製品寸法の測定条件、ひいては組構造の推定等にも発展できる可能性が示された。

吉田氏は、丸台に非対称な糸の配置を与えることで、スプリング状の丸源氏組紐を制作した。この曲がった組紐は引張荷重によりストレートな形状になるが、徐荷により元の形状に復帰する形状記憶機能を有する。繊維束数や配置、経路などのミクロ的組構造パラメータと巨視的な組紐形状の関係についても検討が進められており、複合材料の強化形態としてこれまでにない応用分野の広がりを感じさせる。

高木氏は、江戸時代から強い組紐として知られてきた真田組紐の構造と強度の関係を調べ、道具紐としての優秀さに科学的根拠を与えることを試みた。真田組紐は他の組紐と比べてよこ糸がたて糸の2倍量あるため、通常の1倍の組紐も制作して引張試験を実施した。また断面観察により繊維束の断面形状、繊維束間距離、クリンプ角度などの構造パラメータを計測した。その結果、引張試験の最大荷重(破断強度)は両者に違いはないが、最大荷重時の伸びは真田組紐が大きく、弾性率は小さいことが判明した。即ち引張力を負担するたて糸の量が同じであるため、破断強度は変わらないが、太いよこ糸によるクリンプ角の増大が弾性率を

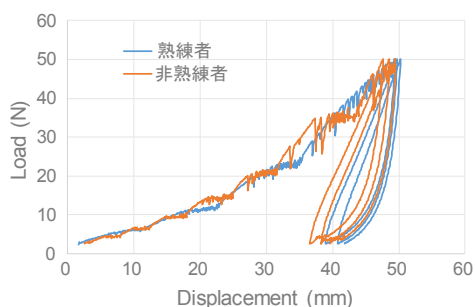


図1 初回の引張荷重で生じた40mmの残留変形(菊池)

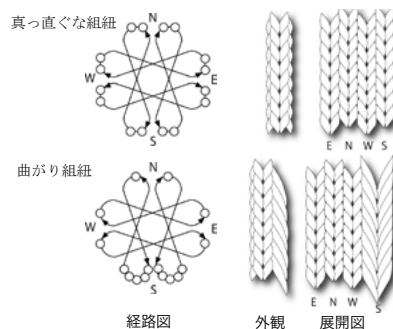


図2 まっすぐな紐と曲がり紐の構造の相違(吉田)

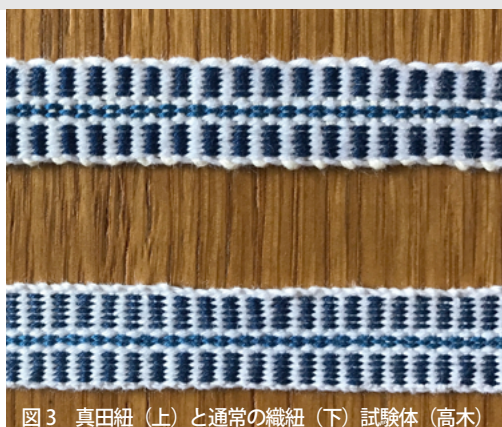


図3 真田紐(上)と通常の織紐(下)試験体(高木)

低減させ、破断時の伸びを大きくしたと推定した。真田紐は高強度であるとの言い伝えは否定されたが、低い弾性係数は結び易さに寄与するため、道具紐としての優秀性はその根拠を得たと言える。

木村氏は従来から工織大で続けられてきた組紐熟練者の技能の解明について報告した。今回は非熟練者の学生4人を被験者とし、1ヵ月毎に丸台で組紐を制作し、一定時間に組まれた組紐の長さを測定した。被験者の2名は、丸台上部からの糸の高さを、別の2名は丸台上で動かす糸の角度を測定した。練習に伴って単位時間の組み上がり長さは長くなり、丸台からの糸の高さは定位置に、組成点は丸台の穴の中心に近づいた。また練習の際に、丸台上の糸の角度に注意して組むと、できあがった紐の断面形状は円形に近づいた。このことから、初心者への指導の際には、糸の角度に注意して組むことが重要であると結論した。

池上氏は結びのもつ実用性や信仰上の風習が、日本史の各時代と共にどのように変わってきたかについて報告した。講演者は自ら組んだ組紐を用い、各時代に存在した結びのうち、縄文時代の作業結び4種、弥生時代の作業結び10種などを再現している。またこれらの結びに関する情報は、江戸中期に伊勢貞丈が著した「包結記」の原本(国会図書館デジタルライブラリ)を参照するなど、単なる文献調査に留まらない熱意と努力が感じられる。

日下部氏はインドネシアのスラウェシ島に住むトラ



実験風景

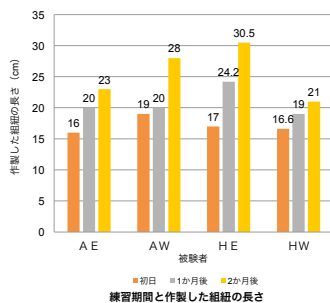


図4 組紐制作の練習時間と出来上がり長さの関係(木村)

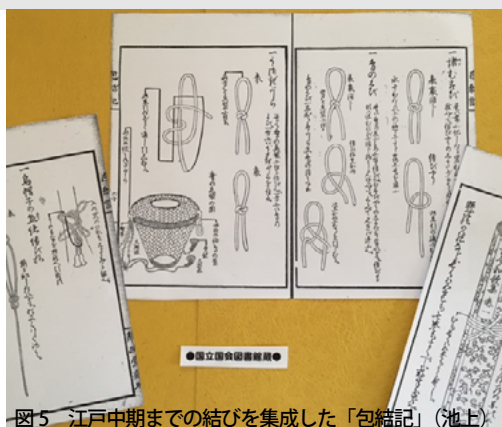


図5 江戸中期までの結びを集成した「包結記」(池上)

ジャ人のループ操作組紐について報告した。儀礼に用いられた巾着袋の紐や葬儀の際の頭被りに用いられているループ操作組紐について、何度も現地に調査に赴き、現在では使われていない複雑なループ組紐についても調査を行っている。ループ組紐の事例研究ではなく、民族の儀礼や風習の中でこのループ操作組紐がどのように発展し、現在に至ったのかを民族誌的観点から考察している点が注目される。



図7インドネシアのトラジャ人のループ組紐ボテ(日下部)

3. 懇親会

講演終了後の17:30から、60周年記念館2階で親睦会が開催された。学食を運営する生協のスタッフが手際よく会場を設営し、大谷会長の乾杯の音頭に続いて、組紐検定合格者への認定証の授与、作品展の優秀作品への表彰状および副賞の授与が行われた。



懇親会

第4回作品展示会

2017年5月26日～28日 京都工芸繊維大学60周年記念館2階



第4回シンポジウム会場では第5回組紐・組物学会作品展示会が開催され、25人+1グループの作品が展示されました。出席理事が審査員となり、組紐・組物学会学会賞1名、優秀賞2名、奨励賞1名が26日に決定され、同日の懇親会の席上で表彰状の授与が行われました。学会賞は吉田有夫子氏の曲がり組紐を含む創作組紐アクセサリ群に、優秀賞は池上かおり氏の結び作品と北原文代氏の法隆寺幡垂飾模作に、奨励賞は吉迫美穂氏の組紐アクセサリ作品に対して与えられました。また昨年度1級試験に合格し新たに当学会認定講師となられた岡本睦子、清澤澄江両氏の作品展示がありました。



組紐・組物学会学会賞
吉田有夫子氏



優秀賞
池上かおり氏



優秀賞
北原文代氏



奨励賞
吉迫美穂氏



組紐・組物学会賞



優秀賞



優秀賞



奨励賞



展示作品説明会

本学会では、スポーツ・産業分野の組紐、繊維複合材料分野の組紐、そして日本をはじめとする各国の伝統の組紐の研究や普及活動を行っています。なかでも日本の伝統の組紐は、その技術を継承するシステムが失われつつあるため、その指導者の育成は急務と考えています。組紐・組物学会では、2010年から「組紐・組物検定」を実施し、伝統の組紐に関する知識と制作技術を客観的に認定することにより、組紐技術の指導者の育成を目指しています。認定講師作品展示会は、組紐・組物学会認定講師となった会員の作品を学会外の方にも広く公開し、組紐の魅力と新しい可能性をご紹介します。



清澤澄江氏作品

第2回認定講師 作品展示会



岡本睦子氏作品

第4回組紐国際会議

Braids 2019 Iga



京都で2007年に開催された第1回組紐国際会議を受け、第2回は英国のBraid Societyの主催により2012年8月にマンチェスターで、第3回はアメリカの有志が英国のBraid Societyの協力を得て2016年7月にタコマで開催されました。次回はまた日本に戻っての開催を予定しています。会場は伊賀市の中心部で、ほとんどの関連施設が徒歩圏にあり利便性に優れています。また夕方に町に出て食事する際の選択の幅はこれまでにないといえます。会期終了の金曜日から始まる、ユネスコ無形文化遺産に登録された伊賀天神祭も注目されます。参加申し込み仮受付は2018年1月から、最終受付は7月1日からBraids2019のWebサイトでを行います。

■日程 2019年10月13日～18日

13(日) 受付・作品展準備・歓迎パーティ

14(月) 基調講演・WS・作品展

15(火) 基調講演・WS・作品展・バザール

16(水) バスツアー・作品展

17(木) 基調講演・WS・作品展・バザール

18(金) 基調講演・WS・作品展・解散パーティ

■参加費 30,000円

内訳は登録費5000円＋受講費5000円×5日です。一日だけ参加の場合は5000円＋5000円となります。参加費に含まれないものは宿泊費、夕食、ワークショップ

ブの材料費、現地までの交通費などです。

■ホテル 会場から10分圏内に3つのホテルがあります。(会場までの時間・宿泊費は目安です)

ルートイン・グランディア：徒歩10分・6800円

サンピア伊賀：バス10分・5000円

伊賀上野シティホテル：徒歩2分・5000円

■会場までのアクセス

(1) 空港⇄伊賀市(高速バス 要乗換)

中部国際空港→名鉄バスセンター(1200円：28分乗換)→伊賀ハイトピア前(1850円：110分)

関西国際空港→大阪駅前(乗換)→伊賀ハイトピア前(1550円：100分)

(2) 京都⇄伊賀市(直通高速バス)

ハイトピア前⇄京都駅八条口(1800円：95分) 京都行きのみ、料金は乗車の際に支払います。

(3) 大阪・京都・名古屋⇄伊賀市(電車)

JR 関西本線 伊賀上野から伊賀鉄道伊賀線で7分

近鉄大阪線 伊賀神戸から伊賀鉄道伊賀線で25分

■歓迎パーティ 10月13日(日) 18:00～20:00
崇廣堂の庭園(雨の場合ハイトピア3F情報発信フロアまたは崇廣堂内部)

■解散パーティ 10月18日(金) 18:00～20:00
ハイトピア3F情報発信フロア(立食)



ワークショップ・講演会場のハイトピア



作品展示会場の崇廣堂



伊賀城の右に見える和風のビルはルートイン・グランディア

©2014 Carlos Honda

■公式図録

参加者には受付時に配布します。(日本語・英語併用)

■講演・ワークショップ

自薦に基づき講師選考委員会が審査して決定します。
詳細は6月中旬に学会のWebに掲載します。

なお、毎日16:30～18:00はハイトピア3階にて、
ワインをのみながカジュアルな講演・講習会を行います。

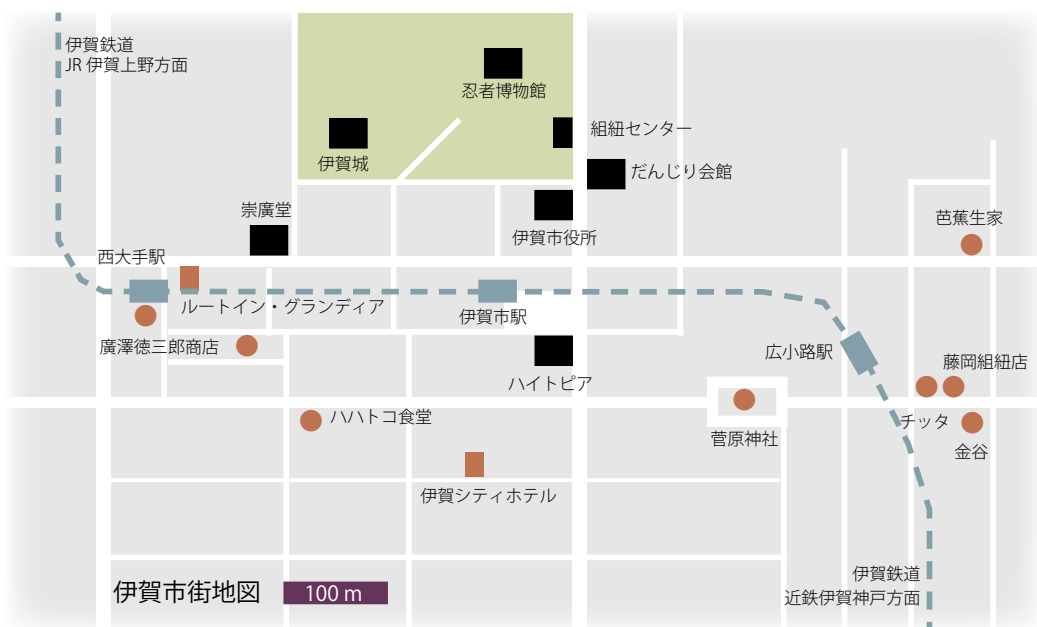
■作品展示会 崇廣堂

会議参加者および伊賀市民は、原則誰でも出展できます。
見学は無料です。

■バスツアー

10月16日(水)バスによる伊勢神宮方面および伊賀
市内の組紐工房見学。

上野城、忍者博物館、組紐センター、作品展示会場は
徒歩圏内なので、各自空き時間に見学できます。



天神祭宵山



青山高原

プレートで組む高麗目の組紐

Korai kumihimo with Kumihimo Plate

小嶋博子
Hiroko Ojima

本稿は2017年に東京(7月)と京都(12月)で開催されたワークショップのレシピです。

1. はじめに

高麗組はもともとクテ打、高台で組みます。厳密に言えば、2目飛びの平組で、クテ打では偶数条数、高台では奇数玉数です。クテ打では中央の目が片方は2目飛び、もう片方は3目飛びになります。もちろん条数は変えることができます。高台でも、玉数は好みの数で作ることができます。玉数が増えると、畝の数が増えます。高台では2-2-2-2と綾を取り、最後に1本が残るように最後の手取りをします。最後が3の時も2の時もあります。耳部分の厚さで好みの本数にしてください。そして一番向こうにある糸を通します。左右交互に同様の手取りをします。

高麗組はその名前が示すように高麗から渡って来たという説と、日本人は外国からのものを尊ぶことからこの名前をつけたとする説があります。古くからありますが、高台での制作は高台が考案されてからです。江戸時代からと考えます。刀の下緒、鎧の緘糸として多用されたようです。高麗組には1枚高麗と2枚高麗、3枚高麗があり、2枚高麗は表裏に色が反転したりバーシブルの模様を作り出すことができます。3枚高麗は表と裏の間にもう1枚入っていて、もう1色を効果的に使う方法です。ただし、厚みが出るので、その分用途に限られます。帯締めにするには少し柔らかくする必要があります。

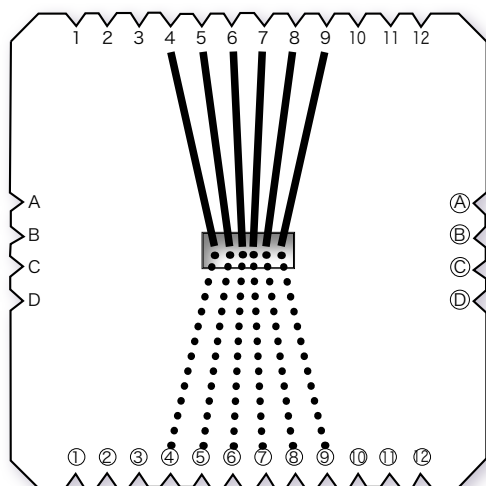
今回はその高麗目の組紐を手軽に組むため、ディス



クまたはプレートで挑戦しました。まず最初に毛糸でサンプルを組み、慣れたところで高麗組とそのバリエーションで撚り糸のチョーカーまたはプレスレットを製作しました。一体化してる部分と二つに分かれて

いる部分があります。この部分を効果的に使って、ボタンホールやレース組紐をつくりましょう。組み方をご紹介しますので、ワークショップにご参加なさらなかった方、どうぞお試しください。

2. プレートで組む高麗組 12 玉 (12 玉の場合はディスクでも組める)



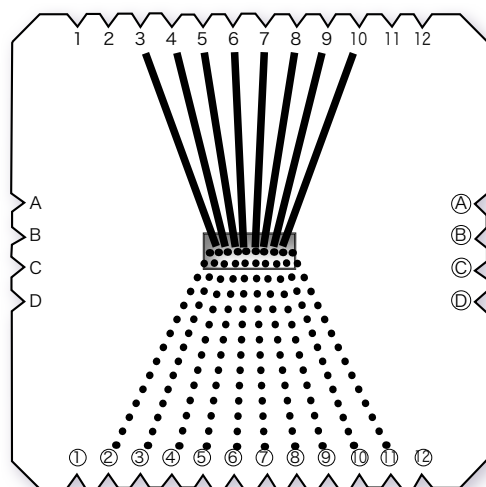
亀甲柄

A 色を 4～9、B 色を④～⑨にかける。

手順

1. ⑥を一旦⑧へ
2. ⑦を一旦 B へ
3. 7 を⑩へ
4. 6 を③へ
5. ⑧を 10 へ、B を 3 へ
6. 同様の移動を 3 回繰り返し、
(手前はクロスし、向こうはそのまま開いて)
糸が両端まできたら最初の配置に戻す。

3. プレートで組む高麗組 18 玉



亀甲柄

A 色を 3～10、B 色を②～⑩にかける。

手順

1. ⑥を一旦⑧へ、その時⑩⑪は下をくぐる。
2. ⑦を一旦 B へ、その時②③は下をくぐる。
3. ⑧を 11 へ
4. B を 2 へ
5. 7 の糸を 10、11 の下をくぐらせて⑥へ
6. 6 の糸を 2、3 の下をくぐらせて C へ
7. ⑥を 12 へ
8. C を 1 へ
- 1～8 の手順を終える毎に、中央寄りに掛け直す。

4. 変わり高麗ネックレス 12玉

材料

撚り糸 190cm 6本

ボタン大1個

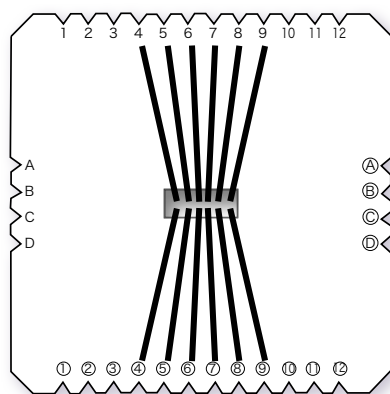
(中央のポイント用)

ボタン小1個 (エンドパーツ)

③ 後半はクロスの回数を自由にしてください。
前半と同じ長さ組んだら巻上げ結びで始末する。

② プレートにかかっている糸の2本⑥⑦をボタンの穴にくぐらせて後半を組む。
組み方は自由
(穴の大きさ)

① 紐の中心へ小さい穴二つのボタンをつけて、高麗目で組む。
20～23cm位まで組んだら②へ



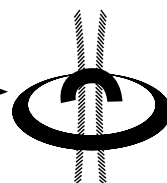
1回クロス 穴が大きくなり巾も広くなる。

4回クロスして組む 2段の穴
穴が小さく、巾も狭い。

高麗目

高麗目

⑥⑦の糸をボタンの穴に通す。
(穴が上を向くように)
通した⑥を一旦⑧へ
⑦を一旦Bへ——手順通り



5. 変わり高麗プレスレット 12玉

基本の組み方



クロスするとクロス
しないの繰り返し



ボタンホール

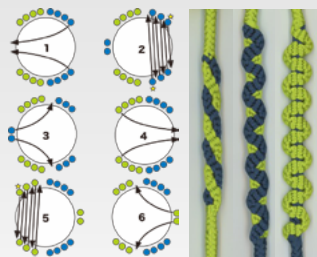
クロスするとクロス
しないの繰り返し





東京ワークショップ 日本女子大学

組紐遊び (ディスクとプレート) 2017年5月13日(土) 多田牧子



ディスクやプレートで創作サンプルを製作し、気に入った組み方でプレスレットやチョーカーなどを作りました。レクチャーは「歴史と復元」日本の組紐の歴史と復元の方法などを写真や絵画などで解説しました。

ジグザグ組紐遊び 2017年11月25日(土) 西 幾代



プレートを使って組むジグザグ組紐でアクセサリを作りました。色々な素材やビーズを用いた楽しい組紐でした。

高麗組とリバーシブル小桜源氏 2017年7月8日(土) 小嶋博子



午前中はディスクまたはプレートで高麗組を、そして午後には撚り糸でプレスレットを製作、また丸台では珍しい、両面の色が違うリバーシブルの小桜源氏や平源氏に挑戦しました。2015年の学会賞に輝いた、難易度の高い素晴らしい組紐です。

老松を楽しむ 2018年1月20日(土) 丸山文乃



老松技法を元にさまざまに変化させた組み方で、老松を楽しみました。断面が三角形のものやクネクネした老松など、これまでになかった老松です。いろいろな用途に利用していただきたい技法です。

豪華なビーズ組紐ネックレス or バングル 2017年9月16日(土) エイドリアン・ガスケル



京都の後に東京でも Adrienne Gaskell さんにワークショップをしていただきました。今回は図も充実していて、楽しいビーズ組紐のワークショップでした。

クテを作る クテを使って組む 2018年3月10日(土) 亀井三枝子



クテ打は器具を使わない古代の組紐技法です。今回は「クテを作る、クテを使って組む、飾り紐を2種、4本同時打ち」が中心のワークショップで、「2人組」「3人組」などのデモもしていただきました。



京都ワークショップ

京都工芸繊維大学

組紐遊び

2017年5月26日（金）多田牧子



ディスクやプレートで創作の面白い組紐で、プレスレットやチョーカーなどを作りました。クネクネした模様ができる平紐です。6種類の糸の動きの組み合わせで、自由に自分だけの模様を作り出せます。

撚り紐を組む

2017年5月28日（日）土居みどり



撚り紐でチョーカーやプレスレットを製作しました。まず、撚り紐の作り方を学び、その紐で各自好きな組み方でネックレスを作りました。糸を引き揃えて組むのとは違い、表情のある素敵な組紐ができました。

丸台組紐の無限の可能性

2017年8月25日（金）吉田有夫子



組紐ディスクで、丸台組紐の可能性を追求するワークショップです。2016年Tacomaで行われた Braids 2016 での講座の日本版です。どうやって新しい組紐を創るか、みんなで考えました。

豪華なビーズ組紐ネックレス or バングル

2017年9月26～29日（金）Adrienne Gaskell



ビーズ組紐の第一人者 Adrienne Gaskell さんはビーズ組紐を入り口として、やさしく豪華なネックレスやバングルを製作指導し、多くの米国人に組紐の楽しさを広めて頂きました。

ディスクで高麗組

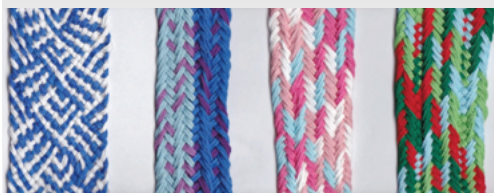
2017年12月8日（金）小嶋博子



ディスクまたはプレートで高麗組に挑戦します。高麗組とそのバリエーションで撚り糸のチョーカーまたはプレスレットを製作しました。詳しくは本誌8～11ページを参照。

クテ打

2018年2月16日（金）春日弘子



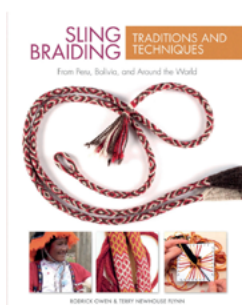
クテ打は、古代日本で発展して日本の組紐の基礎を築いた器具を使わない組紐技法です。今回は初心者向けに手操作の基礎3種類の組み方を、経験者向けに13ループと15ループの平紐を組んで頂きました。

新しい組紐の本



- 書名：Kumihimo Textile Jewellery
- 著者：Leigh Morris
- 体裁：電子ブック（Kindle 版）
- 定価：1088 円（税込）
- 発行：2015 年 12 月 13 日
- ASIN：B019CWM28Y

ジグザグ組の応用を、イヤリング、ブレスレット、ブローチ、ショールピン、ネックレス等の 50 作品について解説。本書は Amazon の Kindle 形式の電子本のみの販売で、Kindle アプリをダウンロードしてパソコンやタブレットで閲覧します。



- 書名：Sling Braiding - Traditions and Techniques
- 著者：Rodrick Owen, Terry Newhouse Flynn
- 体裁：A4 版、ハードカバー 208 頁、フルカラー
- 定価：4536 円（税込）アマゾン調べ
- 発行：2017 年 11 月 28 日
- ISBN：9780764354304

投石紐はアンデスの組紐の研究家として知られる著者の出発点であり、これまでの著作でも何度も取り上げられています。本書はアンデスの投石紐に限らない、世界中の投石紐 50 種を 8 玉から 32 玉のカードで組む方法を解説しています。



作品見本は本学会の認定講師（小嶋、岡本、西、丸山、清澤）の各氏により制作されました。

- 書名：うつくしい組ひもと小物のレシピ
- 監修：多田牧子
- 体裁：B5 変形版、ソフトカバー 96 頁、フルカラー
- 定価：1404 円（税込）
- 発行：2017 年 7 月 31 日
- ISBN：9784537214901

初心者向けながら、丸台のみを使った 35 種類の組紐の作り方を解説。木製の台だけでなく、日常の道具を丸台の代わりにして組んだり、できあがった紐をおしゃれでかわいい小物に仕上げるための具体的な方法を紹介しています。

貴重なクテ打資料の頒布

本学会の木下雅子元理事の大著である「日本組紐古技法の研究」（京都書院 1994）はクテ打研究のバイブルとして、本学会内外で広く知られています。このニュースレターでも 2014 年 2 号「組紐の本」特集号において、本書は「正倉院の組紐や、製作法が謎とされてきた西大寺、知恩院、速玉神社、春日大社、御嶽神社所蔵の平安・鎌倉時代の名品が、組台を使わず手だけで制作されていたと云う結論は合理的であり、組紐研究史の中で特筆すべき業績である。」と紹介されており、さらに 2015 年には、本書を含む一連の業績が、本学会の第一回の業績賞に輝いています。

しかし本書は近年品切れとなっており、一般書店からの購入が困難となり、クテ打の研究を志す方は定価よりも高額な古書を求めねばならない状況でした。

このたび、木下元理事のご厚意により、著者として保存されていた「日本組紐古技法の研究」27 部を本学会にご恵贈頂けたことは誠に有難く、これを希望者に定価（30,000 円）にて販売することと致しました。

また同時に、2004 年に国際奈良学セミナーハウスにて開催された「ループ組紐グループ」の展示会の図録（非売品）もご恵贈賜りました。これは A4 版 88 ページのブックレットでビジュアルも多く、「日本組紐古技法の研究」と併せて参照することにより、ループ組紐の世界をより深く、しかし身近に感じることが出来るものと思われました。そこで本図録を「日本組紐古技法の研究」の付属資料として配布致します。

購入資格は学会員のみ 1 セット限りとし、転売目的での購入とならないよう、シリアルナンバーを付与します。希望者は学会事務局（E-mail: inoda@kit.ac.jp）までメールでお申し込み下さい。本会告はニュースレターのみで行っており、全学会員にほぼ同時に告知されています。なお売上は学会の運営資金として使用させていただきます。（申込み開始は5月10日です）



「日本組紐古技法の研究」



2004 年展示会図録

第9回組物検定 京都

第9回の組物検定試験は2018年12月8～9日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1, 2, 3, 4, 5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。学会ホームページもご参照下さい。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的な技能と知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的な技能と知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

綾竹台作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的な技能と知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台1枚物作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的な技能と知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組

みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。

■合否判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は8000円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点がございます。組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院伝統みらい教育研究センター内
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel/Fax: (075)724-7844、E-mail: inoda@kit.ac.jp

■匠検定

2015年度から「匠検定」が設けられました。筆記試験のない実技のみの試験です。実技試験としては、1級より難しく、高台2枚物の技能を検定します。匠検定から受験する方は丸台の試験もあります。また2年以内に製作した作品2点以上を提出して頂きます。



2013年12月 実技試験

ワークショップ 京都 2018-2019

■第1回ワークショップ (60周年記念館 2F)

5月25日(金) 10:00～16:00 小嶋博子
5月27日(日) 10:00～16:00 丸山文乃

■第2回ワークショップ&レクチャー

(総合研究棟 4F 多目的室)

8月24日(金) 10:00～16:00 多田牧子
8月25日(土) 9:30～12:00 レクチャー 多田牧子

■第3回ワークショップ (総合研究棟 4F 多目的室)

10月5日(金) 10:00～16:00 三上扶実子
10月6日(土) 10:00～16:00 レクチャー 多田牧子

■第4回ワークショップ&レクチャー

(総合研究棟 4F 多目的室)

12月7日(金) 10:00～16:00
ワークショップ 西 幾代

12月9日(日) 9:30～12:00

検定直前レクチャー 多田牧子

■第5回ワークショップ&レクチャー (2019年)

(会場未定)

2月8日(金) 10:00～16:00 角浦節子
2月9日(土) 9:30～12:00

ワークショップ&レクチャー 多田牧子

ワークショップ 東京 2018-2019

■第1回ワークショップ (会場は日本女子大学)

5月12日(土) 10:30～16:00 多田牧子

■第2回ワークショップ

7月14日(土) 10:30～16:00 吉田有夫子

■第3回ワークショップ

9月8日(土) 10:30～16:00 青柳淑恵

■第4回ワークショップ

11月10日(土) 10:30～16:00 岡本睦子

■第5回ワークショップ (2019年)

1月12日(土) 10:30～16:00 清澤澄江

■第6回ワークショップ (2019年)

3月16日(土) 10:30～16:00 亀井三枝子

ワークショップの日時・会場・講師には変更がありますので、学会ホームページで最新情報をご確認下さい。



役員

■会長

大谷章夫 : 京都工芸繊維大学

■副会長

仲井朝美 : 岐阜大学工学部

多田牧子 : 組紐研究家

■理事

荒川光久 : 全国くみひも教材センター

上田隆久 : 日本ピラー(株)

魚住忠司 : 村田機械(株)

小嶋博子 : 組紐研究家

北村雅之 : 北陸ファイバークラス(株)

倉谷泰成 : (株)カドコーポレーション

寺本 靖 : (有)寺本文化財工芸社

西 幾代 : 組紐研究家

西本博之 : 武田薬品工業(株)

濱田泰以 : 京都工芸繊維大学

濱中知子 : ハマナカ(株)

廣澤浩一 : 三重県組紐協同組合顧問

松梨久仁子 : 日本女子大学

圓井 良 : 圓井繊維機械(株)

渡辺一生 : 渡敬(株)

事務局

猪田宮子 : 京都工芸繊維大学



組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院
伝統みらい教育研究センター内
〒606-8585
京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel/Fax: (075)724-7844
E-mail: inoda@kit.ac.jp
www.kumihimo-society.org
ご入会、ワークショップ、組紐
検定、シンポジウム講演、作品・
製品展参加のお申し込みはこ
ちらをお願いします。